

モンスーンアジア農法とアグロエコロジーの出会い

宮浦 理恵 氏

(東京農業大学 国際食料情報学部)

日時

2024年12月14日(土) 14:00～17:00

開催方法

対面(京都大学本部キャンパス
総合研究2号館4階 AA447会議室)
とZOOMのハイブリッド開催です。

下記サイトより事前にお申し込みください。

<https://forms.gle/m6nTSuG2SGQ56iHZ8> (当日12:00締め切り)



要旨

アグロエコロジーは、生態学、農学、社会科学の知見を統合し、在来知と融合させることで持続可能な食農システムの構築を目指す科学的かつ実践的アプローチである。1980年代以降、アメリカの研究者たちは中南米のフィールドを中心に、農生態系や農法、社会システムに関する研究を蓄積し、アグロエコロジーの基盤を作った。FAO(国連食糧農業機関)はアグロエコロジーを持続可能な食農システムを実現するための学術的基盤の一つと位置付け、2019年に「アグロエコロジーの10の要素」を開発した。最近では、学術分野のみならず、社会運動、政策立案にも貢献する国際的に重要な枠組みに発展している。

モンスーンアジアでは、長期にわたる環境、農業、食の相互作用を通じて地域特有の食農システムが形成されてきた。本報告では、長期性、エネルギーフロー、栄養循環、多様性をキーワードに、モンスーンアジアの伝統的農法をアグロエコロジーの視点から見つめなおし、持続可能なアジア型アグロエコロジーの構築に向けた方向性を議論したい。